

一 浄飯王摩耶夫人成仏証文の事

仰せに云はく、方便品に云はく「我始め道場に坐し樹を觀じ亦經行して」の文是なり。
又寿量品に云はく「然るに我実に成仏してより已來」の文是なり。教主釈尊の成道の時、
浄飯・摩耶も得道なり。本迹二門の得道の文是なり云云。此の文は日蓮が己心の大事なり。
我始と我実との文能く能く之を案ずべし。其の故は爾前經の意は父子各別の談道なり。
然る間成仏之無し。今經の時父子の天性を定め、父子一体と談ぜり。父母の成仏は
即ち子の成仏なり。子の成仏は即ち父母の成仏なり。釈尊の我始坐道場の時、浄飯王・
摩耶夫人も同時に成道なり。釈尊の我実成仏の時、浄飯王・摩耶夫人同時なり。始本共
に同時の成道なり。此の法門は天台伝教等を除きて知る人一人も之有るべからざるなり。
末法に入りて日蓮等の類、堅く秘すべき法門なり。譬へば蓮華の華葉の相離れざるが
如くなり。然れば法華經の行者は男女悉く世尊に非ずや。薬王品に云はく「一切衆生の
中に於て亦為れ第一なり」と。此則ち世尊の經文に非ずや。是真の仏子なれば法王の子
にして世尊第一に非ずや。